

平成 17 年度 医療ソーシャルワーカー研修（初任研修）報告

那覇市立病院

医療福祉相談室 仲宗根 恵美

平成 17 年 11 月 28 日（月）から 12 月 9 日（金）まで国立保健医療科学院で行われた、医療ソーシャルワーカー初任研修を受講した。全国から 164 名の参加があり、講義やロールプレイ、パネルディスカッションなどを交えた内容であった。

講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や業務指針、専門職としてソーシャルワークをどのように行っていくかを中心に行われた。オリエンテーション時に「前年度のアンケートで希望の多かった演習を多く取り入れた。」との言葉通り、殆どの講義でグループワークや意見発表が行われた。

医療ソーシャルワーカー（MSW）は、病院の一職員として病院のために仕事をすることはもちろんであるが、医療機関で働く福祉専門職であることを忘れず、常にソーシャルワークの視点で物事を見、考え、行動していくことが大事である。

また、MSW も今後は訴訟の対象になってくるだろう。そのためにもちょっとした相談、電話での簡単な相談であっても記録をしっかりとつけること。そして情報を漏れなく提供することが大事である。という言葉が一番印象に残った。

記録を書く際は、何をどう客観的に書くか、MSW がアセスメントを行った根拠は何か、クライアントのどの言葉からそう考えたのかをきちんと説明できるようにしなければならない。また、相談依頼した相手が知りたいことが書かれていなければ記録としての意味がない。クライアントの心理状況、問題点を言語化し他職種に伝える。他職種が読んでも分かるよう、『簡潔・明瞭』に、きちんと伝えられる記録をつけること。その為には記録を書く訓練が必要であり、他職種とチームを組み仕事をしていく上でとても重要なことだと感じた。特に今後、電子カルテになると限られたスペース内で書くことになり、MSW の専門性がより問われるであろうとのことだった。

受講者の中にはすでに電子カルテ化している病院もあり、相談室としてどのようなフォームになっているか、記録はどのように入力しているのか等いろいろな意見を聞くことができとても参考になった。

相談室には様々な資源情報が集まってくるが、その情報を患者だけでなく職員に対し情報伝達する役割も MSW は持っている。現在相談室では、それぞれの部署から問い合わせがある度に資料を届けているが、今後はパソコンを活用し資源情報の整理を行い、院内ネットワークなどを利用し必要に応じそれぞれが情報検索できるよう、職員間で情報共有できる方法を考えていきたい。そし

て相談室が情報の宝庫であるために、新鮮で正確な情報を持つよう心がけたい。また、業務統計、資料整理、各様式など業務を効率よくこなすにはどうしたらいいかを常に考え、ソーシャルワーク業務にシステムを作っていくことも検討していきたい。

今後ますます「在院日数の短縮」「(これまで以上に) 周辺医療機関との病診・病病連携が重要になり、医療連携の取り組みが活発になってくる」ことが予想される。この研修で全国の MSW と知り合うことができ、大きなネットワークを作ることが出来た。今回築いたネットワークを大事にし、MSW としてどのように地域連携業務に関わっていけばいいか、何が出来るかを考え、相談室としても他機関と情報交換し連携作りをする必要があると感じた。

これまで自分が行ってきた業務を振り返り、これからのソーシャルワーカーとしての在り方、相談室の在り方についてゆっくり考えることができ大変有意義な研修であった。